

19年度イベント反省事項と次回改善策

事項	なぜ	改善策	いつから
4月7日山陽ハイツ大会			
なぜかしら事前申し込みの記載でメール申し込みで2件の忘れ?と1件のクラス間違いが発生。	多分データの一元管理ができていないため		
参加費を主催側に渡す場合E - Cardレンタル料は参加費とは別に上乗せで徴収し県協会収入にすべきであった	実施打ち合わせの時は本格的な競技を想定しておらず気にしなかった	参加費を主催側に全額渡す場合の要項では参加費プラスE - Cardレンタル料の書き方にする	終了が決まっているためこのままにする
4月21日白石島大会			
コントロールつけ間違いが試走で判明した。	事前のマーキング時確認を怠っていた。	マーキング時複数の目でのチェック、コントロール設置時の確認、と試走時の確認のトリプルチェックの再徹底。	
A/Vクラス受付で長い行列ができた	該当者が9:45着フェリーに集中した。参加費徴収などの手続きは2人でもできるはずなのでフレキシブルな対応をしたい、と反省していたができていなかった。	この時の時間帯は複数で分担して処理するようにする。個々のイベント前に前年度の改善な事項をチェックすること	次回～
E - Card前日に動作確認していても当日動作不良が多く出る	動作確認で反応しても容量不足の場合息切れするよう	少しでも動作確認で反応が遅いものはMTRで読み取ってすべてのコントロールを記録しているか確認してみるしかなさそう	新見大会から実施中
12月1日吉備中央公園大会			
くっつき虫(ヤブハギ?)が多量についている人が多くいた		付着したものをとる要領を掲示するようにする	
2月2日由加山大会			
上位ルート記入依頼が対象者全部に依頼できなかった。	運営が忙しすぎ気が付いた時は遅すぎた。	計セン担当と分けるようなやり方が必要で、終盤には2人が良い。3台のパソコン使用からやってみる	山陽ハイツから実施中
E - Card不良による読み取りで所要時間が間違っていた人がいる	計センラッシュの時間帯に十分な対応ができていない	計セン対応を2ににできれば焦らずに処理できるのだが	
山のUPDAWNがきついで設置で疲労し次の作業がなかなか進まず、試走はきつい	みんな歳をとて来た	課題ですね	

18年度に続き事前準備、当日運営共、少数運営対応によるひずみ(疲れ、マンネリ化、緊張感不足等)が徐々に実害となって出てきている。